

新任医師紹介

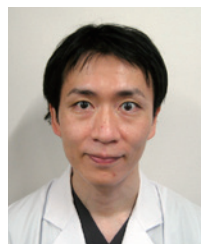
新しく採用になった医師を紹介します。



脳神経外科医師

まえだ ゆうよう
前田 雄洋 (R3.7.1)

広島大学より松江赤十字病院に赴任しました、前田雄洋と申します。専門分野は血管障害や外傷です。微力ながら地域の皆様のお役に立てるよう、日々精進して参ります。よろしくお願い申し上げます。



研修医

さじ いちろう
佐治 一郎 (R3.7.1)

鳥取大学病院から来ました、研修医2年目の佐治一郎と申します。4か月間こちらでお世話になります。志望科は眼科か耳鼻科を考えています。松江赤十字病院のよい所を学びたいと思いますので、よろしくお願いします。

退職者

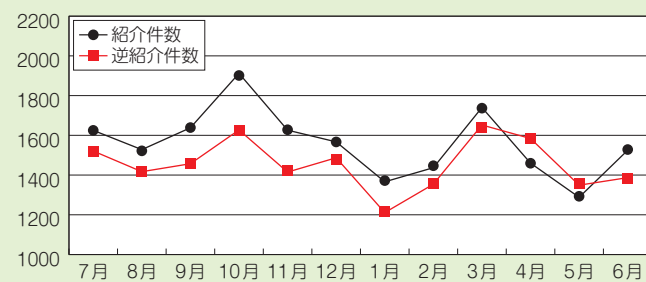
●令和3年6月30日付

糖尿病・内分泌内科副部長 山本悦孝

お世話になりました



紹介・逆紹介件数



ご紹介ありがとうございました。

行事案内

第18回地域連携交流会

11月4日(木) ホテル一畑

第15回地域医療従事者スキルアップセミナー

11月6日(土) 松江赤十字病院

是非、ご参加ください



松江赤十字病院 地域医療連携課

日本赤十字社

れんけい



vol.50
2021年8月号

血管造影室を一新

バイプレーンIVR-CTシステム

を導入



放射線科部 技師長

加藤 秀之

この4月に新病院開設から11年を経て血管造影室を大改修し最新の血管造影システム(バイプレーンIVR-CT、山陰初・中国地方で2番目)を導入しました。工事期間の2ヶ月間は地域の先生方にもご不便をおかけしたと思いますが、導入したシステムでは1度の造影で同時に2方向から撮影が可能な血管造影装置に加えて、20列マルチスライスCT装置および超音波装置が配備され、24時間365日迅速かつ高度な医療が提供できる新たな体制が整いました。

頭頸部血管領域においては、脳動脈瘤や硬膜動静脈瘻に対するコイルリング、急性期脳梗塞に対する血栓回収術や血栓溶解術、頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術など近年飛躍的に進歩している血管内治療に対して、バイプレーン装置で2方向からの透視、撮影に加え、2Dあるいは3Dロードマップ、3D画像に血行動態診断を加えた4D画像、ステント強調画像など高度なサポート機能も備えており、迅速かつ精密な治療が可能となりました。安全面においては後述するように従来の機種と比較し放射線被ばくが低減され、造影剤使用量の半減により腎臓への負担軽減も可能となりました。また術中、術後には併設されたCT装置(金属アーチファクトを軽減するアプリケーション

ンを搭載)により、従来のような移動が不要となり安全かつ効率的な撮影が可能となりました。

放射線科領域においても、頭頸部領域同様の機能に加え、肝動脈血栓症における3D画像での栄養血管の同定機能など、様々なカテーテル治療を高度で正確に行えるようになりました。また同室に血管撮影装置、CT装置、超音波装置が配備されることにより、様々な臓器の生検、ドレナージ、門脈系治療などにおける画像下穿刺に、より最適な手技が選択できるようになりました。

近年、医療被ばくの適正管理のあり方について厚生労働省からの提言がありましたが、本システムはその最新技術により患者及び医療スタッフともに被ばくを低減することが可能となし、当院で既に導入している患者被ばく線量管理システムで、バイプレーンIVR-CTシステムでの患者被ばく線量を詳細に解析することで、被ばく管理がより充実したものになりました。

我々診療放射線技師は、これらの高度な診断や治療にいかなる時も対応できるよう装置の保守管理を行うとともに、各種手技をサポートできるよう日々技術の研鑽に励んでおります。

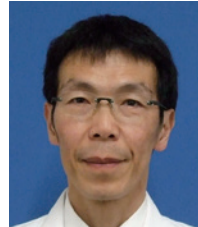
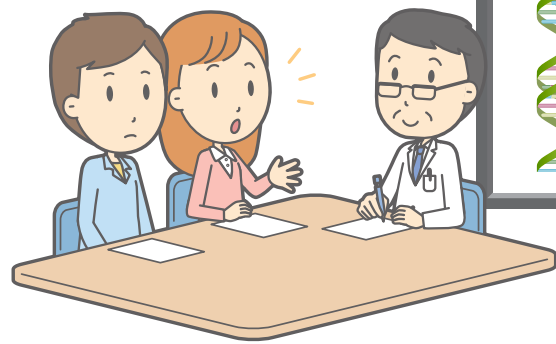
新しい装置を導入し、医師、看護師、診療放射線技師が一体となって今まで以上に高度な診断と治療を地域に提供していく所存です。今後とも松江赤十字病院をよろしくお願い申し上げます。



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

遺伝相談外来のご紹介



第二小児科部長
ゲノム診療科
藤 脇 建久

当院では、平成 29 年 7 月より臨床遺伝専門医による遺伝相談外来を、月に 3 回（第 1，第 2，第 3 木曜日の午後）行っています。昨年から今年にかけては、遺伝性腫瘍、出生前診断、骨・結合組織疾患、先天性呼吸器疾患、染色体異常、先天代謝異常症、反復流産、不育症、眼科疾患について、遺伝相談／遺伝カウンセリングを行いました。

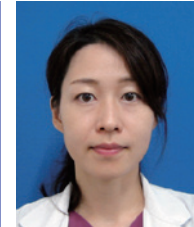
遺伝相談外来では、遺伝に関する情報を来談者（クライアント）さんにわかりやすくお伝えし、クライアントさんがしっかり考えたうえで納得して、自分自身の検査・治療の方針を自己決定できるように支援することを目的としています。そのために、十分に時間を確保し、通常の外来診療とは異なった部屋で行っています。必要な情報をお伝えすることはもちろんですが、それ以上にクライアントさんの気持ちを聞き、一緒に考えることに重点を置いています。

遺伝関係の技術は日々大変な速さで進歩しています。一方でゲノム医療は、診断にしても治療にしてもすでに特別なものではなくなってきました。その中で、医療の方針を医療者が決めるのではなく、クライアントさん本人が決定することが

求められる時代になってきました。また個人の遺伝情報は、生涯不変であること、血縁者への影響がありうることなど遺伝情報特有の問題があります。遺伝情報に関しては、知る権利とともに知らない権利も配慮されなければなりません。クライアントさんが納得した自己決定をするためには、遺伝学的検査によって、何がわかるのか、何がわからないのか、通常の臨床検査とは何が違うのかを十分に理解していただく必要があります。

遺伝情報がクライアントさんのメリットにつながるよう、遺伝相談外来を充実させていきたいと考えています。遺伝性疾患、出生前診断など遺伝に関する相談を希望される方がおられましたらどうぞご紹介ください。

クライアントさんの紹介は、
地域医療連携室にご連絡ください。
遺伝情報の管理には細心の
注意を払って行います。



第一形成外科
榎 原 倫 子

近年リンパ浮腫に対する外科治療が発展、広く普及するようになり、リンパ浮腫への治療の選択肢が広がってきました。

当院でも従来行っていた術後リンパ浮腫へのリハビリテーションによる複合的理学治療に加え、診断、検査、外科治療、合併症への対応と浮腫に対し総合的な治療を行えるよう昨年 7 月にリンパ浮腫外来を開設しました。

リンパ浮腫はむくみによる重だるさだけでなく、蜂窩織炎、リンパ漏、潰瘍など様々な症状を引き起こし、QOL に支障をきたします。リンパ浮腫の多くはがん手術後の続発性リンパ浮腫であり、比較的若年で生じる婦人科系がん、乳がんからの発症が多く、活動性の高い年代であるため大きな問題となります。またご高齢の方も浮腫によって ADL の低下をきたし、さらに症状が悪化してしまうという悪循環を生じます。浮腫を認めたら早期の治療介入を行うことによりむくみの増悪や合併症の出現を予防することができます。

むくみがでてきて困っている患者様がいらっしゃいましたら、ぜひリンパ浮腫外来へ一度ご相談ください。むくみの診断から治療方針につき診

察させていただきます。

リンパ浮腫と診断された場合、治療に関してはまずはリンパドレナージ、圧迫療法、運動療法、スキンケアを 4 本柱とする複合的理学治療を開始します。肥満、下垂時間、生活習慣などについても悪化因子を認めれば改善を図っていきます。症状に応じた期間で定期的な通院を行っていただき、その都度周径、外観、体重の変化を記録します。蜂窩織炎を繰り返す方、数か月しても浮腫のコントロールができない方に対しては外科的治療をおすすめします。外科的治療にはリンパ管静脈吻合、リンパ節移植、脂肪吸引などがありますが当科では保険適応であるリンパ管静脈吻合（LVA）を基本に行っています。術後も圧迫療法の継続は必要であり、周径の大きな改善を目標とした手術ではありませんがこれまでの手術された患者様の結果では合併症の頻度に著大な改善がみられています。重症度の高い患者様、脂肪沈着が高度の患者様においては LVA だけでは症状の改善が難しいこともあり、必要に応じて広島大学病院国際リンパ浮腫治療センターへの紹介を検討します。

患者様が浮腫や合併症に対する不安から解放され、健康的な生活を送っていただけるよう尽力していきたいと思っています。



リンパ浮腫外来のご紹介